

act 35

art, culture, tradition

[発行] 札幌市教育文化会館

アクト第35号

September 2020



非日常の世界を支える衣裳

model :
坂口紅羽 [ELEVEN NINES]

衣裳

舞台、テレビ、映画、イベント、オリジナルユニフォームなど、さまざまな現場で衣裳に関わる仕事をする。それが「衣裳さん」と呼ばれる人たちです。今回は札幌の舞台作品に長く関わるアキヨさん(Jellyfish)にご登場いただき、デザイン、製作、スタイリングを通して、求められる世界観を衣服で具現化する「衣裳」という仕事に迫ります。

Photo : Hiroo Takatsu [STUDIO TAKE 2]





札幌室内歌劇場公演オペラ

『イオランタ』～盲目の姫～ 日本語上演 [2010]

人形劇でオペラを上演した作品の、人間の衣裳を製作。演出の沢則行氏らによるデザイン画を立体化した衣裳は、黒やシルバーが中心。ベルベットの質感で華やかな雰囲気。



yhs 結成20周年記念公演

『白浪っ!』 [2017]

盗賊が活躍する『白浪物』歌舞伎のリメイク作品。原作のキャラクターと演じる役者をリンクさせ、赤をメインに使った舞台美術とのバランスも考慮した衣裳デザイン。



撮影：高橋克己



新芸能集団

乱拍子 [2011~2019]

和太鼓を柱として、伝統芸能の流れを組み合わせながら新しい太鼓の響を生み出す演舞作品の、衣裳の一部を製作(デザインは共同)。公演では早替えが多く、裏方も担当。



札幌で「衣裳」を仕事にする数少ない一人がアキヨさん。
長年関わってきた演劇を中心に、衣裳の仕事について伺いました。



PROFILE

jellyfish
アキヨ

札幌在住。仕事の傍ら舞台衣裳に携わるようになって、2003年に衣裳の個展を開く。その後フリーランスで活動。芝居・オペラ・伝統芸能・オーダー衣裳の受注製作を行う。衣裳製作だけでなく本番の衣裳管理や早替えなど、裏方も手がける。また、舞台衣裳だけでなくドレス・リメイクなど個人の要望も受けている。

「この衣裳を着ると、この役になれる」と言われると、 すごく嬉しい。

—アキヨさんが衣裳に関わるようになったのは、どういった経緯からですか？

もともと洋服を作ったり、お直しをしたりということをしていたのですが、普段着よりドレスなど非日常の服作りに面白さを感じていて。友人が舞台美術を手がけたお芝居を観に行ったときに、そこで知り合った人たちの劇団の稽古場へ遊びに行き、気づいたらその作品の衣裳を縫っていた(笑)のがきっかけです。それから人手の足りてないところへお手伝いに入るようになって、だんだん関わる時間も作業量も増えてきたので、仕事として衣裳をやるうと決めて今に至ります。

—演劇作品の場合、衣裳さんはどんなことをされるのですか？

お話をいただいた時点で台本ができていないことも多いので、まずは和物か洋物か、時代物か現代物かなど、話の設定と登場人物について確認します。私の場合は同じ役でも演じる役者によって衣裳が変わるので、配役が決まってから衣裳デザインに着手します。作品によっては既製服を使ってスタイリングだけのこともあります。イメージ通りの服を探すのも結構大変で、最終的に自分で作ってしまうことも多いですね。台本を読み込んでイメージを膨らませ、演出家とプランをすり合わせて製作に入ります。製作中も、役者

さんの動きや演出プランを確認するために、通し稽古は必ず見に行きます。実際の舞台で衣裳をチェックできるのは劇場入り後なので、その段階でいろいろ微調整することも多いです。あとは裏でひたすらアイロンがけなどのメンテナンス。本番中は不測の事態も起こるので、その対応をして、終わった衣裳は汚れをチェックして。予算の関係で1着しか用意できなかった衣裳で血だらけになる芝居なんかだと、終わった瞬間に即洗濯です(笑)。昔は舞台上で衣裳が完璧な状態に保たれていないとダメだと思って結構ビビリしていたけど、今は役者さんが衣裳を自分のものにしてきているなら、物語の成り行きとして多少崩れてもいいんじゃないかと、考え方が少しずつ変わってきたと思います。

—作品における、ものとしての「衣裳」の役割とは？

セリフや舞台美術、照明や音響と同じで、欠けると作品が成立しないもの。舞台美術、照明、衣裳の間には相乗効果があって、相手はプロだから話さなくても通じ合うこともあります。私は照明さんや舞台美術の人ともコミュニケーションを取りたいタイプです。あと、衣裳と役柄をきちんとリンクさせてくれる役者さんだと、「この衣裳はこういう風に見せてほしいのだから」と、こちらの意図を汲んだ動きをしてくれたりもします。役者さんから「この衣

裳を着ると、この役になれる」と言われると、すごく嬉しいです。作品の人物像を裏方含めて全ての人が理解していると、役者、衣裳、照明、美術、音響といった要素がカチッと合います。衣裳はある意味印象に残らなくても良くて、単純に「あの芝居が面白かった!」と言われるのが一番良いと思っています。もちろん衣裳が褒められると嬉しいです(笑)。

—札幌で「衣裳」という仕事をするということについて、思うことはありますか？

私は会社に入ってそこで全部覚えてから独立したわけではないので、自分のことを「隙間産業」と言っていて。「頼まれたら何でもしますよ」というスタンスでやってきて、ありがたいことに声をかけてくれる方々がいたから、こうやって続けてこられた。衣裳デザインだけをやりたいという子にもたくさん会うけれど、札幌だとデザイン一本だとちょっと難しいかなと思います。上演される舞台数や予算規模を考えると、札幌の場合は一人でいろいろできないと難しいかもしれません。

—逆にいろいろやることで鍛えられる面もあると思います。

確かに、スタイリストさんのアシスタントとしてCM撮影の現場に入ったとき、演劇とは全く畑

が違うと思いました。スタイリストさんが用意するのは基本的にお店などからお借りした商品で、自分も元々衣裳を雑に扱ったりはしてなかったけれど、普段以上に取り扱いには気をつけてとか、楽屋周りもとにかくきれいに使うとか、結構鍛えられました。ファッションショーもそうですが、そのスタイリストさんのアシスタントとして入る現場には、同じ服を扱う仕事だけど演劇にはない作業がすごくあって面白いです。

—今後やってみたいことはありますか？

石山緑地がすごく好きで、あそこで上演する野外劇の衣裳を作りたいと、昔からずっと周囲の人に言い続けています(笑)。あと私はほぼ自己流でやってきているけれど、パターンや縫製は日々変化しているので、改めて勉強し直したい気持ちもあります。自分の中で衣裳は着せてなんぼで、作ることも好きですし、それを動いている人に着せることにも喜びを感じます。だから、ダンサーさんの衣裳も今後たくさん手がけていきたいです。

PICK UP

過去作品の衣裳から作家とのコラボレーションまで、アトリエに残る衣裳からご紹介。

伝説の獣の衣裳

演劇ユニットsolomon Grundy『タイヨウノウタ』より。「悪しき夢を抱くものを殺し、よき夢だけを残す伝説の獣」の衣裳としてデザイン・製作。



杉吉貢さんとの コラボレーション

「完全に自分の趣味で作った」というドレスは、モデルが着用した状態で、墨絵師の杉吉貢さんが布地に即興で彼岸花を描いた一点物。



道化師の衣裳

空知遊覧2018現代サーカスパフォーマンス『道〜Les Voies〜』より。昔、劇団遊劇社『花蝶風月』の女盗賊役のためにデザイン・製作した衣裳のリメイク。

KYOBUN WORKS

教文の事業で担当した衣裳から和 문화プロジェクトを中心にピックアップ!



オリジナル羽織

和 문화プロジェクトの一環で、伝統芸能の公演時に職員が着用する衣裳として教文と協働でデザインし、製作。カジュアルに和装の雰囲気演出。



Photo : Erika Kusumi

子ども演劇ワークショップ

『ハックルベリーフィンみたくなりたい』では、衣裳を通じて役について考えてもらうため、子どもたちと話し合いながら衣裳を決定。



「能楽なう」での職員の和装

スタイリングと着付けを担当。この取り組みが来場者や上演団体から好評で、オリジナル羽織へとつながった。

アキヨさんが衣裳を担当する次回公演情報

新芸能集団 乱拍子『つなぐ』

2020年12月4日[金]~12月6日[日]
4日[金] 19:00~ 5日[土] ①10:30~ ②14:00~
6日[日] ①10:30~ ②14:00~

会場 | 札幌市こどもの劇場やまびこ座

